



アイエックス・ナレッジ株式会社

JASDAQ(9753)

2008年3月期

中間決算説明会

2007年11月19日

2008年3月期

中間決算の概要

■ 2007年

- 4月 新子会社「アイエックスときわテクノロジー」発足
- 4月 教育事業を子会社「IKIアットラーニング」へ移管
- 4月 インド 社より人材(研修)受入
- 9月 人材育成支援システム「IKIキャリア」稼動
- 9月 「日本経済団体連合会」に入会

市場動向

- 景気拡大映しIT投資は順調
- 大手メーカー、ベンダーの発注量拡大
- 技術要員不足が一段と深刻化

当社グループの対応

- 引合増え、受注体制を強化。要員確保に注力。
(協力企業・社内調整)
- 利益重視の慎重な戦略受注を継続

2008年3月 中間期 経営成績

(単位:百万円)

	08/3中間	期初予想	期初予想比	07/3中間	前年同期比
売上高	8,986	9,042	-0.6%	8,406	6.9%
売上総利益	1,615	1,534	5.3%	1,337	20.8%
総利益率	18.0%	17.0%	+1.0P	15.9%	+2.1P
販管費	1,225	1,202	1.9%	1,008	21.5%
営業利益	390	332	17.5%	328	18.8%
経常利益	417	339	23.1%	339	22.9%
特別利益	9	0	-	1	-
特別損失	16	37	-55.9%	14	9.7%
中間純利益	243	166	46.1%	182	33.3%

※連結対象子会社:株式会社アイエックスときわテクノロジー、アイケーネット株式会社

2008年3月 中間期 経営成績ポイント

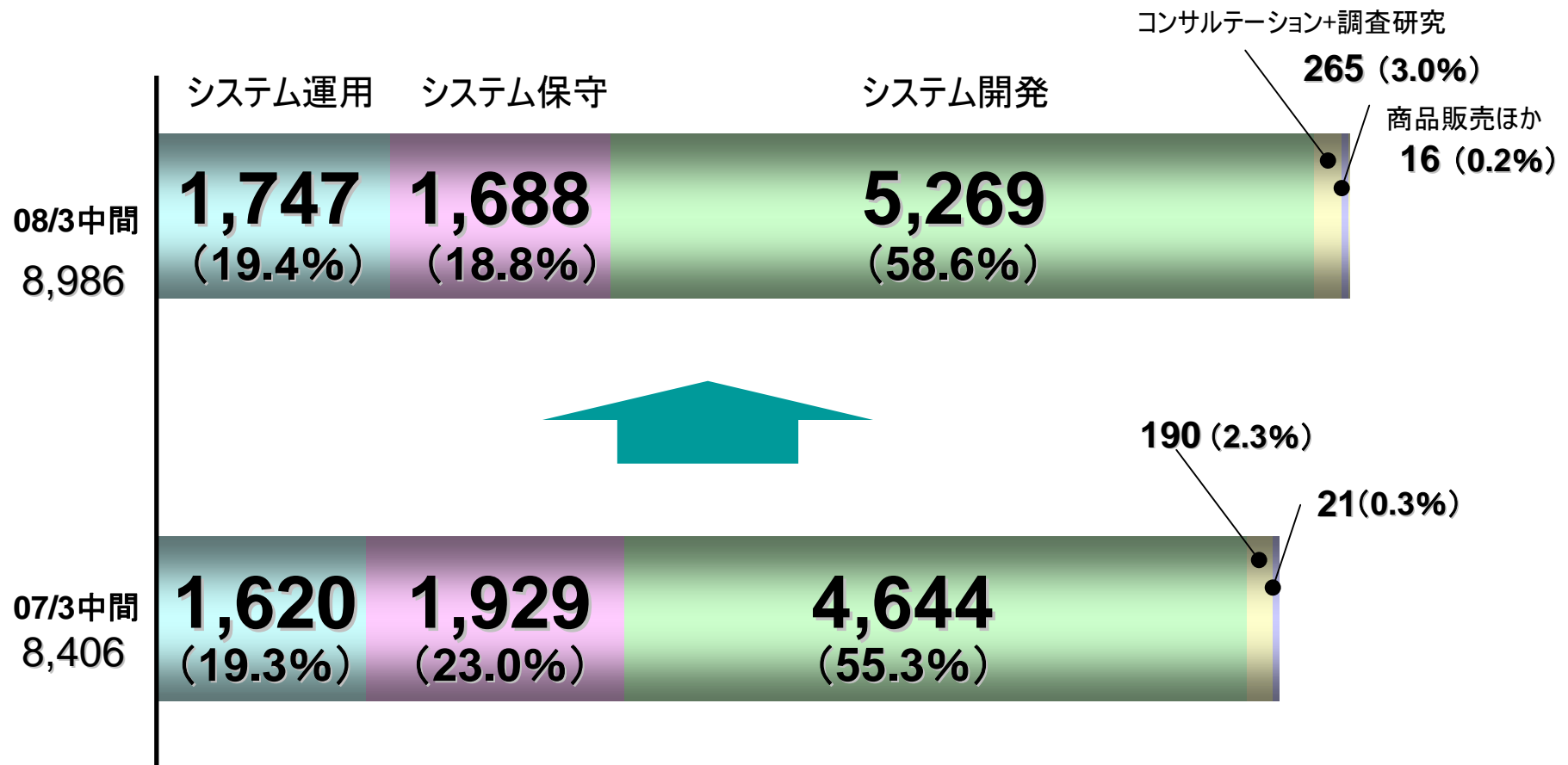
(単位:百万円)

	08/3中間	07/3中間	前年同期比	
売上高	8,986	8,406	6.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・案件受注順調 ・子会社(IT-Tec)合併効果
売上総利益	1,615	1,337	20.8%	
総利益率	18.0%	15.9%	+2.1P	<ul style="list-style-type: none"> ・工程管理強化で生産性が向上 ・要員稼働率が向上 ・トラブル案件はほぼゼロに
販管費	1,225	1,008	21.5%	
営業利益	390	328	18.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社の合併による増加 ・内部統制/日本版SOX法対応 ・連結対象会社追加
経常利益	417	339	22.9%	
中間純利益	243	182	33.3%	

※連結対象子会社:株式会社アイエックスときわテクノロジー、アイケーネット株式会社

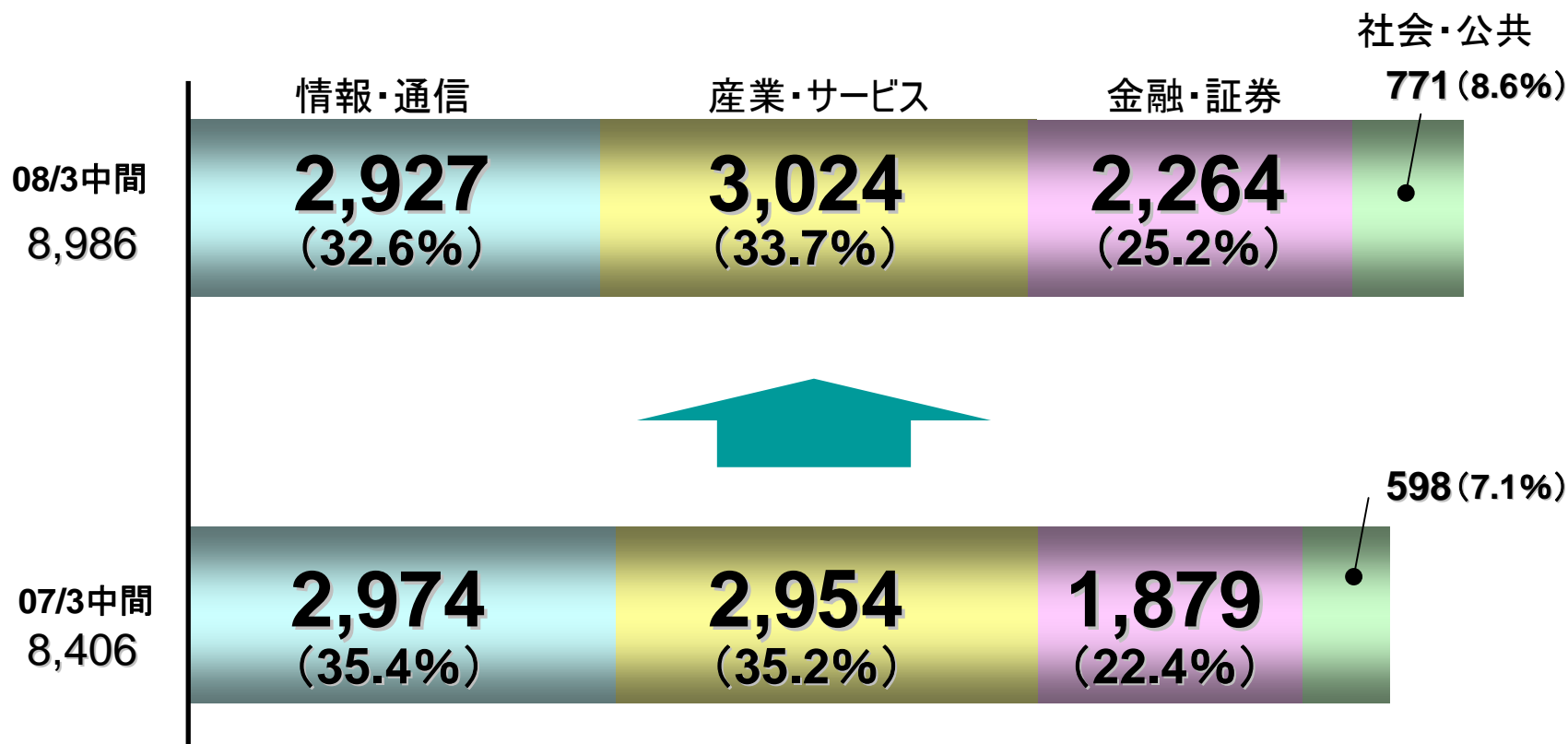
2008年3月 中間期 サービス別売上

(単位:百万円)

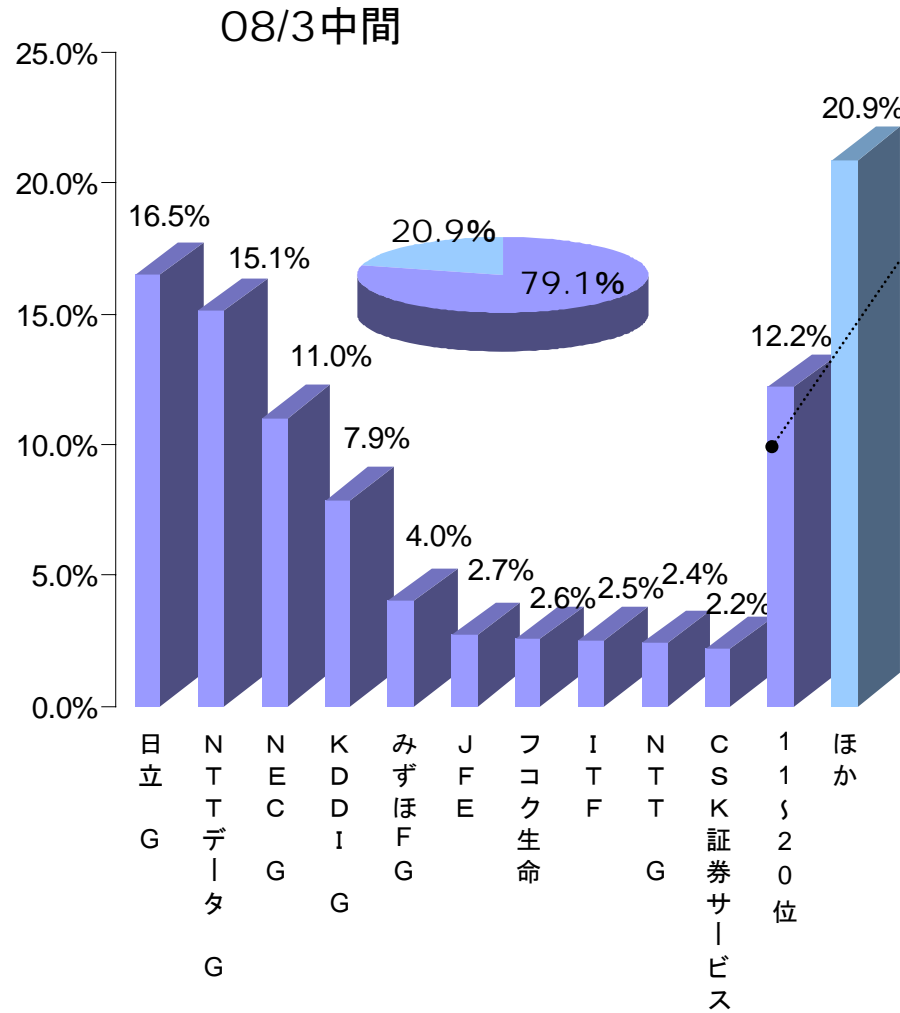


2007年3月 中間期 市場別売上

(単位: 百万円)

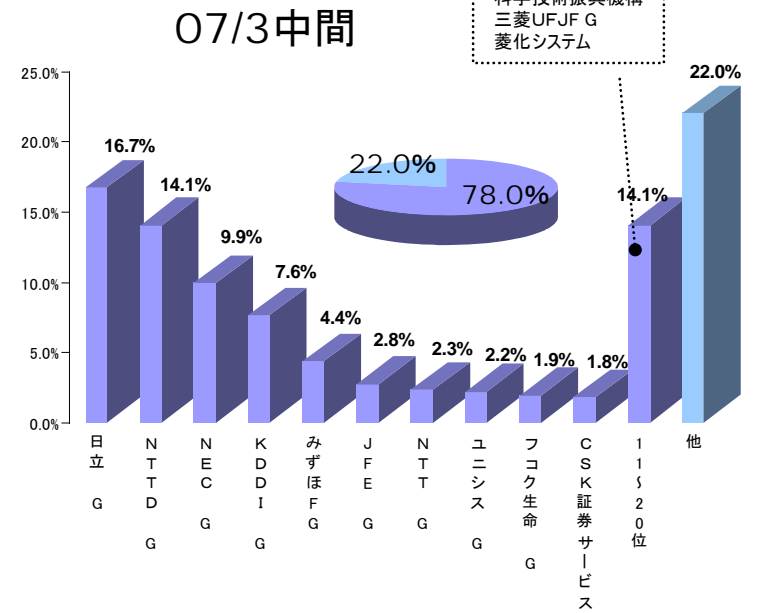


2007年3月 中間期 顧客別売上構成(単独)



- ユニリス G
- テクノアソシエ
- ISID G
- さくら情報システム
- 新日鉄 G
- 科学技術振興機構
- 菱化システム
- 三井倉庫 G
- IBM G
- 住生コンピュータサービス

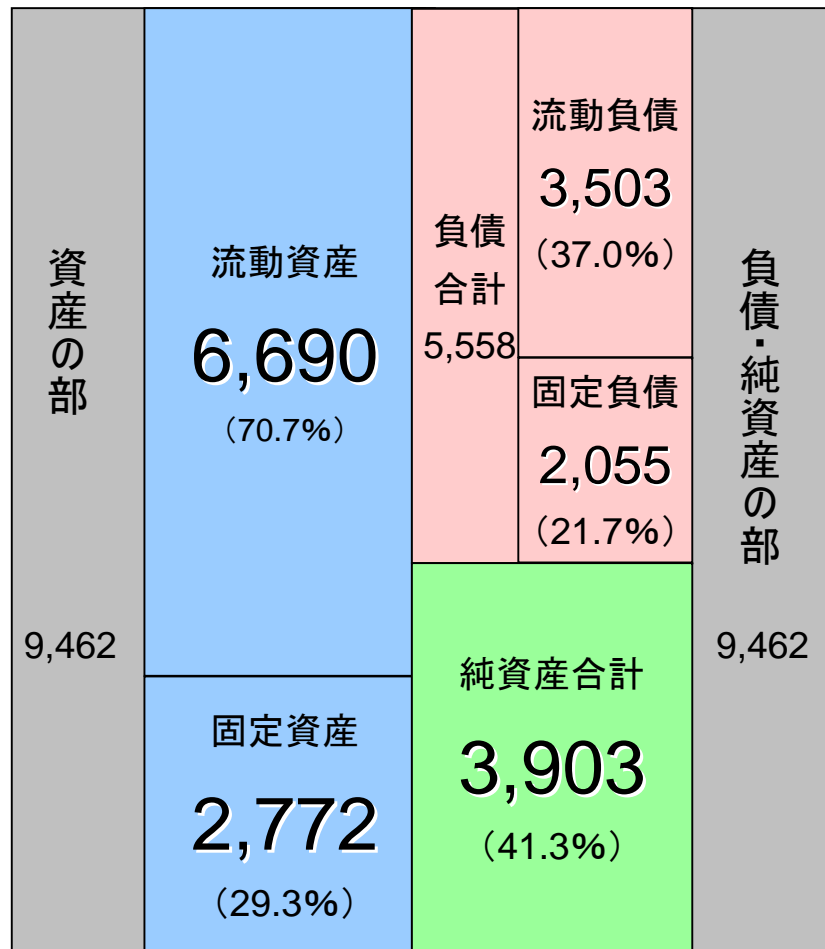
- 日本電子計算
- ITF
- ISID G
- 第二東京弁護士会
- IBM G
- 富士通 G
- さくら情報システム
- 科学技術振興機構
- 三菱UFJFG
- 菱化システム



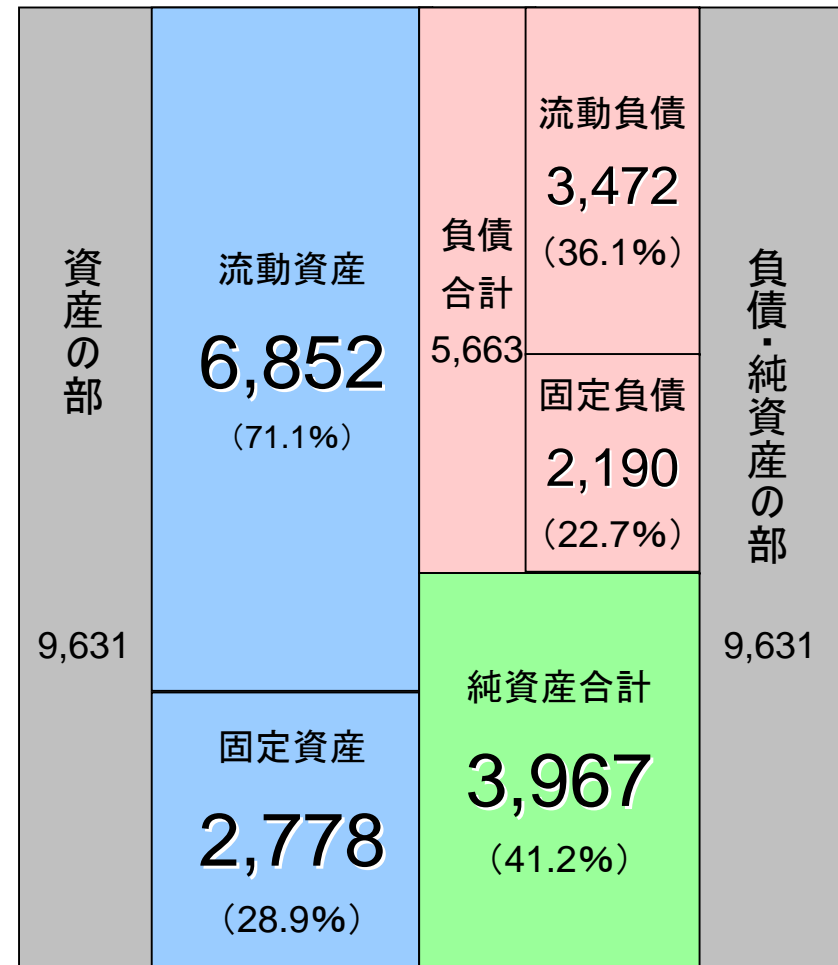
貸借対照表

(単位:百万円)

■ 2007年3月31日



■ 2007年9月30日



キャッシュフロー

(単位:百万円)

	06.4.1 ~ 06.9.30	07.4.1 ~ 07.9.30
I .営業活動によるキャッシュフロー	368	324
税金等調整前当期純利益	326	410
売上債権の減少額	103	685
たな卸資産の増加額	-181	-259
仕入債務の減少額	-82	-83
その他の営業活動	202	-429
II .投資活動によるキャッシュフロー	-139	-152
有価証券の取得による支出	-67	-101
固定資産の取得による支出	-	-56
その他の投資活動	-72	5
III .財務活動によるキャッシュフロー	-1,018	-436
借入金の純増減額	-808	20
社債の償還による支出	-208	-330
配当金の支払額	-	-123
その他の財務活動	-2	-3
IV .現金(同等物)の増減	-790	-263
V .現金(同等物)の期首残高	3,284	2,650
VI .連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	424
VII .現金(同等物)の期末残高	2,494	2,810

2008年3月期

通期業績見通し

金融・証券

- 証券・先物取引システム開発
- 証券系 債権システム、フロントバッチ開発
- 生保系 システム開発・保守
- 地銀系 システム開発・運用
- 銀行系 為替・融資システム開発

情報・通信

- システム検証サービス
- 携帯電話料金計算システム開発
- キャリアNGN(Next Generation Network)
- DWHビジネスオブジェクト化対応
- 衛星通信機関向け販売管理システム構築

産業・サービス

- 組込ソフト開発(RAID、カーナビなど)
- 出版社 情報サイト開発
- 自動車部品 輸出システム開発
- 化粧品 工場新生産システム開発
- 旅行 販売管理システム開発

社会・公共

- 税関 システム開発・運用
- 県警 システム保守
- 鉄道 コールセンターサービス
- 都市ガス 請求システム維持管理
- 原子力機関向け技術計算等

● はグループ会社案件

2008年3月 通期 業績予想

(単位:百万円)

	08/3通期予想	期初予想	期初予想比	07/3通期	前年同期比
売上高	19,016	19,016	0.0%	17,594	8.1%
売上総利益	3,466	3,321	4.4%	2,835	22.2%
総利益率	18.2%	17.5%	+0.8P	16.1%	+2.1P
販管費	2,408	2,278	5.7%	1,917	25.6%
営業利益	1,058	1,042	1.5%	918	15.2%
経常利益	1,101	1,053	4.5%	930	18.3%
特別利益	9	0	-	2	-
特別損失	26	47	-44.0%	20	30.6%
当期純利益	603	569	6.1%	506	19.2%

※連結対象子会社:株式会社アイエックスときわテクノロジー、アイケーネット株式会社

2008年3月 通期 業績予想のポイント

(単位:百万円)

	08/3通期予想	07/3通期	前年同期比	
売上高	19,016	17,594	8.1%	・IT-Tecとのシナジー効果
売上総利益	3,466	2,835	22.2%	
総利益率	18.2%	16.1%	+2.1P	<ul style="list-style-type: none"> ・品質管理の精度向上 ・受注管理強化 ・地方事業の自立
販管費	2,408	1,917	25.6%	
営業利益	1,058	918	15.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・教育／内部統制の強化 ・子会社合併による増加
経常利益	1,101	930	18.3%	
当期純利益	603	506	19.2%	

※連結対象子会社:株式会社アイエックスときわテクノロジー、アイケーネット株式会社

2008年3月 通期 グループ企業別業績予想

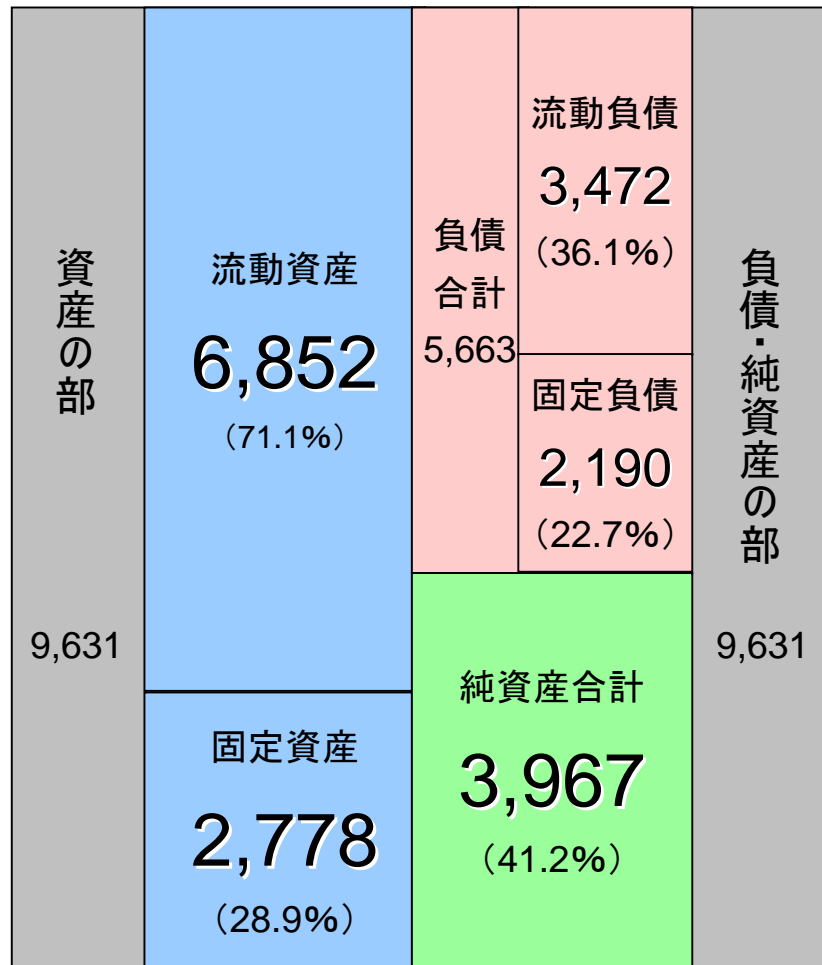
社名	サービス概要	社員数	出資率	業績(通期は予想)			
					売上高	経常利益	純利益
アイエックス・ナレッジ(株)	コンサルティングからシステム運用までの一貫したソリューションサービス	1,301名	-	中間	7,711	423	246
				通期	16,042	934	522
(株)アイエックときわテクノロジー	システム開発主体 科学技術計算に強み	222名	76.8%	中間	1,134	-16	-2
				通期	2,770	117	65
アイケーネット(株)	コンサルティング/システム開発	30名	90%	中間	414	-9	-9
				通期	720	12	6

(単位:百万円)

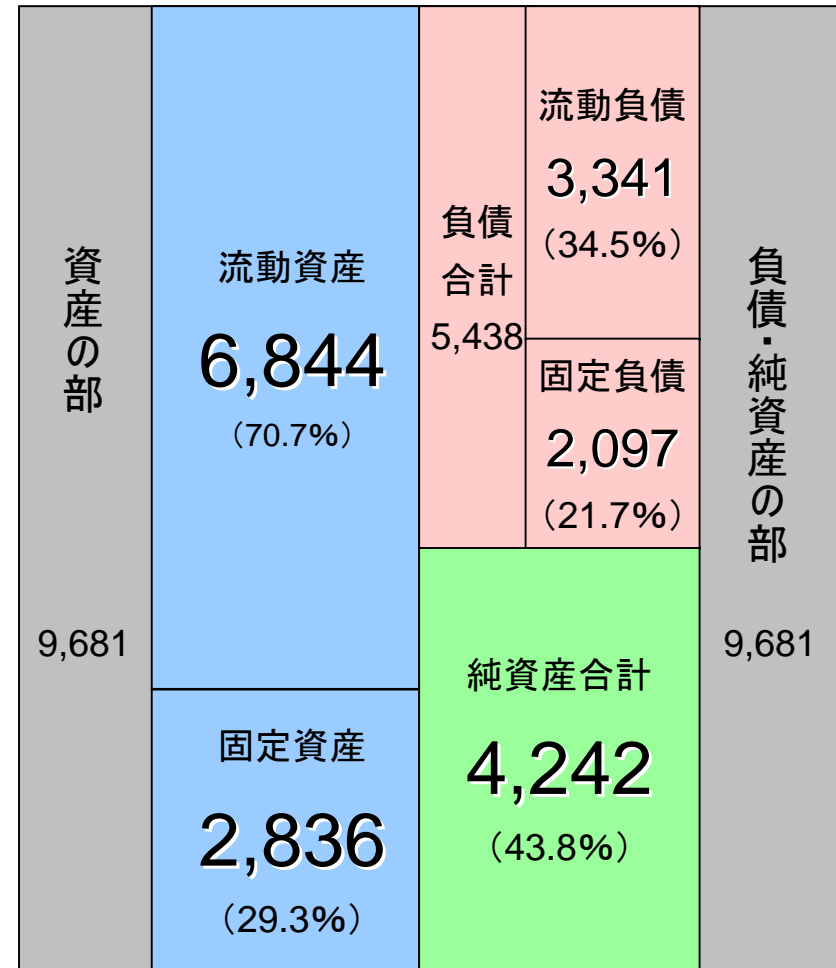
予想貸借対照表

(単位: 百万円)

■ 2007年9月30日



■ 2008年3月31日





中期展望について

230億
(営業利益10%)

企業像「すべてのステークホルダーから選ばれる会社」

■ 頼り甲斐のある／やり甲斐のある／選び甲斐のある・・・I K I

目標・ビジョン

- **独立系1番星** 自主・自立で、顧客信頼随一の地位を築く
- **2nd-tier最強** 大手有力顧客の最優先パートナーに
- **人財3高企業** 人間力を磨く教育研修・個を活かす経営
- **収益目標** 営業利益率10%、連結売上高230億円

売上高 **190億**

市場

- 市場は長期的に穏やかな成長・・・短期的には大幅な振幅も
- 顧客は慎重な発注姿勢・・・費用対効果の投資判断が浸透
- 要員不足が進行・・・アジア企業とのアライアンス拡大へ

案件

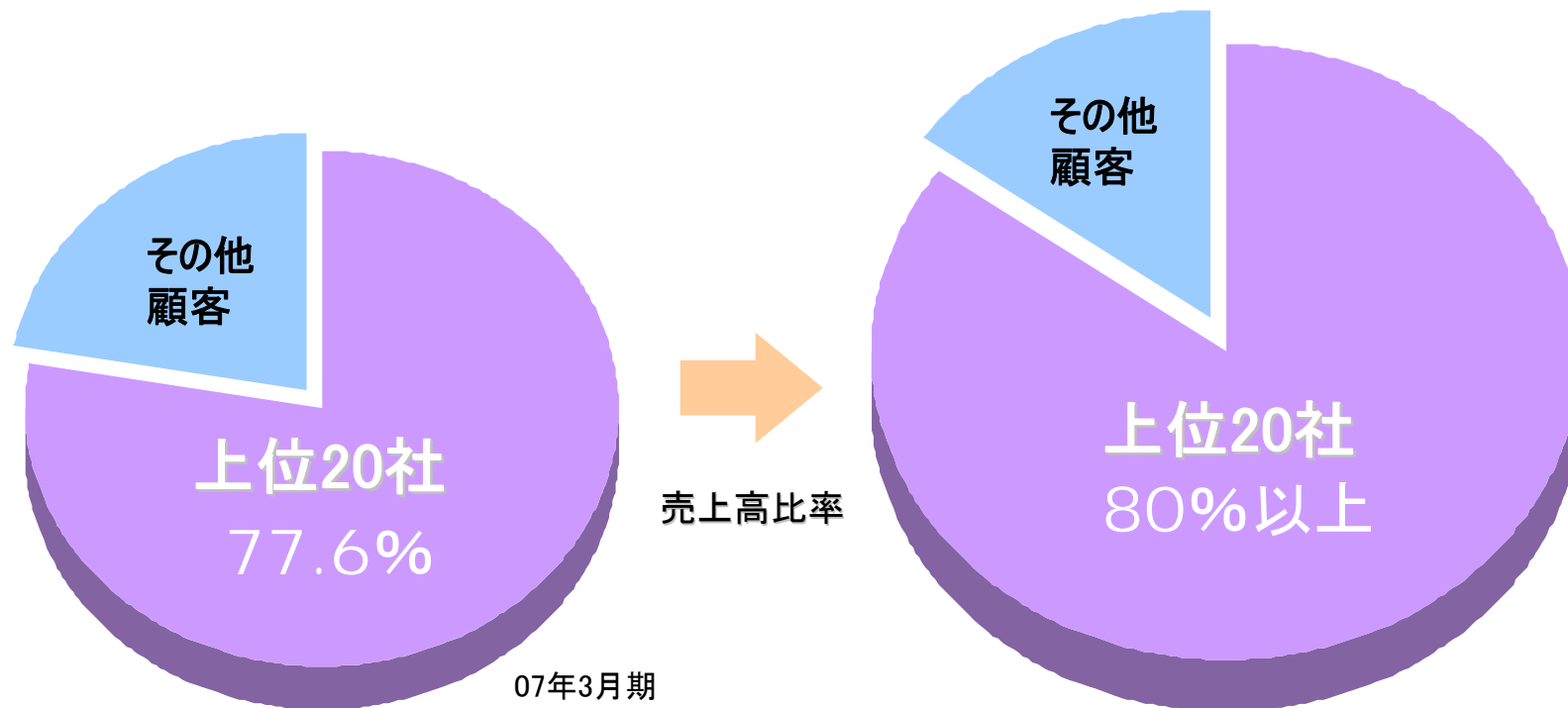
- 日本版SOX法など内部統制強化へのシステム対応
- 自動車・携帯電話など組込系ソフト需要の拡大
- 金融・証券(個別テーマ)/通信(構造改革)中心に活発

要素技術

- オブジェクト指向/オープンソースを基幹系システムに採用
- WEB2.0・・・NGN、SaaSほか

コア・ユーザー戦略（上位顧客の売上構成拡大）

- 増加する大型案件を確保（コアユーザーとの協業拡大）
- 収益の安定化



■コア・パートナー戦略（受注体制強化）

- 有力パートナー企業を「コア」に
- 業務プロセスの共有化を進める
- 友好的な資本関係に積極発展
- 国内拠点もつ外国系企業も対象

■グループ要員拡充

- 新規・中途採用の拡大
- グループ内教育・研修の強化

すべてのステークホルダーから「選ばれる会社」へ

多様化する社会の中で、より高いレベルへの変革を目指すお客様に優れた IT ソリューションを提供できるよう、社内の組織・業務システムを、効率的で確実なものとするべくまた技術者の資質・能力向上のため、教育研修にも注力します。また、価値観を共有するパートナーと連携し、事業の「連峰」を組んでまいります。これらの活動から社会全体を含むすべてのステークホルダーから選ばれる会社になりたいと願っています。

アイエックス・ナレッジ株式会社

※本資料に記載の次期の売上高等予想数値は、現時点での経営状況に基づくもので、実際の数値とは異なる可能性がありますことをご了承願います。